

演題：悪習癖を持つ患者に咬合再構築を行った一症例

演者名：古田洋介

日付：2014年11月25日

キーワード：

- 1.咬合拳上
- 2.顎位診断
- 3.アンテリアジグ（ゴシックアーチ）

抄録：

前咬みの習慣があるブラキサーの患者に、咬合再構築を行った。

顎位が非常に不安定でCRが分かりづらく、おそらくアングル2級2類と思われた。患者の主訴が上顎前歯部の審美障害で、矯正なしでの補綴を希望されたために、やむを得ず咬合を拳上してアンテリアガイダンスを付与せざるをえなかった。

長期間プロビジョナルで形態修正しながら顎位を模索した結果、以前のような顎の疲労感は消え、プロビジョナルの破損や脱離もほとんどなくなったが、前咬みの癖は最後まで消えなかった。

現在最終補綴を終了し、経過を観察しているが、このようなケースでは、診断のためにどんな資料が必要か？また、どのような治療計画を立てるべきか？など、諸先生方の意見をお聞かせ願えれば幸いです。